



## 有松まちづくりの会役員会 (7月27日)

7月25日に行われた有松小花火大会・こども縁日への協力に対して有松小PTAより謝辞があったと報告がありました。有松未来創造株式会社が手がける古民家利活用事業が旧山田薬局で始まったことが話題になり、改修の様子などを皆で関心を持っていきたいとの意見が出されました。有松日本遺産推進協議会の取り組みのための検討部会、①観光・広報チーム ②展示・アーカイブチームの各担当から、現況について報告がありました。

## 第2回 日本遺産に関する勉強会 (6月30日) 於:絞会館

日本遺産の趣旨や目的、優れた事例などについて学ぶ名古屋市歴史まちづくり推進課主催による勉強会が行われた。会場には約30名の方が講師の話に耳を傾けていた。有松のまちづくりにとって有意義な話であったが、より多くの地域の方の参加が望まれる。勉強会開催の周知も課題。

全国唯一の「日本遺産プレミアム」に選定されている小浜市で、「道の駅若狭おばま」「小浜町家ステイ」などの運営をされている地域DMO「株式会社まちづくり小浜」の御子柴北斗さんの講演は、詳細な観光マスキング調査に基づくものであった。

現状を知り、つまり観光客の動向を探った上で、小浜の新たな観光地化をどのように進めてきたのかの紹介であった。

具体的には、時代の変化への対応が遅れ、特に若年層の若狭・小浜離れが生じていた。そこで**観光戦略**としてAuthentic Japan, Wakasa Obama~いにしえより都とつながる「暮らし」が息づく湊町、若狭小浜~が提起され、**ターゲット層**として知的富裕層が想定された。文化や質に価値を置く/贅沢より経験/自分にとっての意義を重視する人物像か。**基本方針**は①「物語」ある観光：小浜の魅力の背景にあるストーリーを丁寧に伝えていく事②三方よし：観光客は滞在して楽しむ/地域にはお金が落ちる/地域の暮らしが豊かになる③マーケティングの基づく観光：ターゲットを選定し、そのニーズを深掘し効果的にプロモーションする。有松の観光戦略を考える上で、ヒントが満載の講演であった。次回勉強会は10月27日に開催予定。



まちの風景 花屋Luore



御子柴北斗さん



## 第20回 寿限無茶屋で上方落語 九雀亭 (6月28日)

2017年に始められた独演会、20回目の節目の今回も定員30名を上回り大盛況でした。中には皆勤賞の方も多数いて、すっかり有松に定着した感じ。落語三席、雪乃美玲による笛の演奏も…笑いあり、聴衆は話芸に引き込まれているようだ。会場の寿限無茶屋ご主人は、桂九雀とは同窓生。「これまで続けられ感無量です。有松の賑わいにお役立てできたかな。」 次回は11月29日(日)開催予定。



有松に魅せられて ⑧

### よそ者だからこそ気づける有松の魅力 川上順子

夫の転勤で訪れた有松。古い町並みを目にした瞬間、タイムスリップしたような衝撃を受け「この町に住みたい」と強く願いました。移住後、有松の歴史や文化を知るほどに、この町の魅力に引き込まれていきました。

なかでも忘れられないのは、秋季大祭です。お祭りの前日、自宅に響くお囃子に誘われて外に出ると、活気あふれる囃子込みの行列。伝統と熱気に圧倒され、子どもと夢中で後を追いかけたあの感動は、一生の宝物です。

「大好きな有松で何かしたい」と思っていた時、地元の文嶺講の川勝さんとの出会いがあり、活動に参加する機会をいただきました。様々な経験を重ね、現在は奉納風鈴ワークショップ\*の運営を任せていただいています。

外から来た私だからこそ、気づける有松の素晴らしさがあります。これから地域の方々との出会いを大切に、この町の魅力を多くの人に伝えるお手伝いをしていきたいです。



昨年の囃子込みの様子:中町年行司前

### 【奉納風鈴ワークショップ \*7/11にて】

川上さんの写真を撮りにWSへ。(写真中央)この日は3歳児と自称"ゆうれい作家"さんが制作に励んでいた。川上さんの熱意が部屋に満ち溢れ、促されるように"にじもっち"塗り絵が色で埋められていた。味わい深い幽霊が風鈴になった。あまりの上手さに再度作家さんに伺うと、[粘土工房pink]を主宰されていると。興味ある方は「12月9日(水)から名古屋栄三越8Fジャパネスクコート展示即売会がスタートします」とのこと。



↑ 奉納風鈴

↓ 幽霊



ちょっと紹介 7月7日(火)中日新聞夕刊「ハイ編集部です」→

### 有松で伝統工芸と触れ合う

江戸時代の民家が残る名古屋市緑区の旧東海道で先月あった「有松絞りまつり」に出かけました。げたの音が心地よく響く人混みの中で、絞りの着物姿の人たちとすれ違いました。見事な文字を毛筆で書く山車の上のからくり人形に拍手を送り、独特のいでたちで街道を歩く猩々(しょうじょう)に、健康を願いながら頭をなでてもらいました。

絞りの専門店では小学4年の孫娘が、お気に入りのTシャツを見つけて「学校へ着ていきたい」と喜んでいました。歴史のある街並みの中で伝統工芸と触れ合い、楽しい一日でした。(名古屋瑞穂・主婦・74)

## 有松小と岡田小の交流会（7月14日）於：有松小学校体育館

岡田の"知多木綿"と関わりの深い"有松絞り"、両小学校の交流を通して、地域文化の伝承を考えようとする機会が設けられた。

始めに、岡田小67名は10班に分かれて有松あないびとの会の案内で町並み見学。「古い建物がたくさん残っている」と感想。続いて交流会。岡田小からスライドで岡田の紹介があった。有松小は9つのブース\*を設け、岡田小の皆を班ごとに説明。タブレットで写真を見せたり、実物や演技をしたりでの説明もあった。直接子ども同士が触れ合う学びに、記者は感動すら覚えた。来年度は有松小が岡田小を訪れる予定。

\* 有松のお店/日本遺産/絞り体験/有松の町並み/有松の祭り/有松の歴史/絞りの種類/有松小学校/タペストリー

## 桜花学園大学留学生 有松体験（7月15日）

留学生31人が早恒染色で染め体験、竹田家茶室でお抹茶体験をしました。6グループに分かれて、サポート役の学生さんや先生も同行。案内は有松あないびとの会。

校会館や山車会館も見学しましたが、やはり体験は印象深かったようです。猛暑の中での見学でしたので、館内案内が多めでした。

厳しい暑さの中、他にも7/1名古屋学芸大学留学生70名、7/6桜花学園大学留学生20名、7/17中部大学留学生20名が有松で町並み案内や絞り体験、竹田家での茶室体験を楽しまれました。

## 有松天満社 授与品紹介

奉納

### 天神の森 龍眺図

天神様のお祭りの日、  
龍にのった神功皇后様が  
虹色の空から  
皆様を見守っています。

この挿絵は、西町神功皇后車に想いを寄せて描かれました。

御朱印、手ぬぐいのデザイン作成の元になっています。

いわれは諸説あります。

この時期、夏限定

ワークショップ

「奉納虹色ふうりん」  
に参加」してみませ  
んか？



## 文芸と有松 第2回 頼山陽 (らいさんよう) 山村 幸雄

校会館の前に頼山陽の歌碑がある。

文化10年(1813)、頼山陽が京の蒔絵師山本春正(井桁屋の親戚筋)から井桁屋に泊っていきなさいと勧められ、宿泊した時の詩歌である。桶狭間合戦の話を家人から聞き、町の風景に心打たれて扇面に書き記したもので、その扇はいまだ保存されており、その写しは井桁屋の店内に飾られている。(服部豊氏談)

歌碑は、平成14年有松絞商工協同組合により設置された。

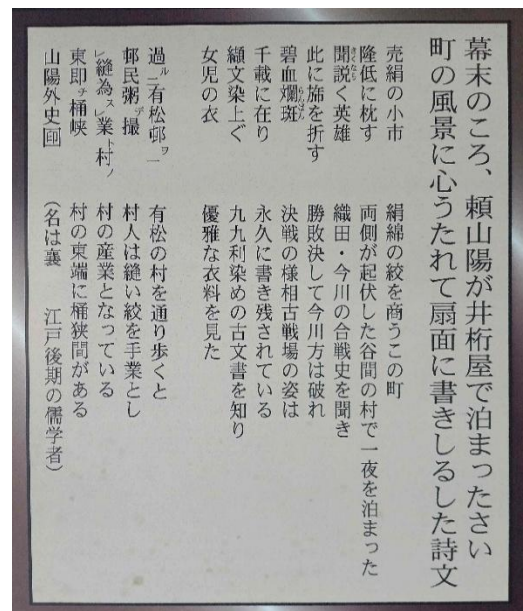
頼山陽は江戸時代後期の歴史家・思想家・漢詩人・文人。主著に「日本外史」22巻、「日本政記」16巻、「通議」3巻がある。「日本外史」は元老中松平定信が感動、自ら題言を巻頭に記す。吉田松陰、橋本左内、梅田雲浜、近藤勇の愛読書。「日本政記」は伊藤博文の愛読書である。

### 岡家住宅にAED 設置 7月25日～

有松あないびとの会では名古屋市からの委託を受け、毎週土・日 10:30～15:30岡家住宅の建物公開をしています。夏の暑さを前に救命救急の研修をした際、土日の建物公開時のもしも！に供えるAEDの設置が話題となり、緑保健センターに相談したところ名古屋市のAED貸し出し制度を利用させていただけることになりました。災害級の暑さの今夏、AEDの使用は無いに越したことはありませんが、公開担当者の心のよりどころとしても活用したい、とのこと。



校会館入口にある歌碑の説明



### 有松小学校花火大会とこども縁日 (7月25日) 於:有松小グラウンド・校会館バス駐車場

コロナ禍の真ただ中「少しでも子ども達に夏休みの楽しさを」と有松小学校PTAが中心となり始められた「有松小学校花火大会」。小学校のグラウンドで打上げ花火をするこの催しも回を重ね、より多くの方の支援を得て有松の夏祭りとして定着してきました。有松小グラウンドは浴衣姿の親子連れ、有松小卒業生、地域の方で溢れ5年生有志による中津川野外学習の演舞披露や♡有松♡、ナイアガラ滝の仕掛け花火、打上げ花火で大いに盛り上がりました。有松まちづくりの会はこども縁日で協力。会場設営、交通整理、片付け等。暑中の作業も子ども達の笑顔に疲れも吹っ飛んだとか。



### 催事・行事予定

- 8月11日(火祝) 10:00 有松絞伝統文化親子教室2026  
竹田家住宅 NPO法人コンソーシアム有松
- 8月17日(月) 18:00 有松町並み相談会 有松コミセン
- 8月23日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 8月24日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン

《お詫びと訂正》前192号"文芸と有松第1回"で肩書の間違ひがありました。訂正部を再掲載いたします。

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)  
編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)  
pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊  
有松まちづくりの会は新規会員を募集しています。(年会費1000円)  
詳しくはホームページ又はお近くの会員までお問い合わせください。

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。  
「有松かわら版」をカラーでご覧いただけます。

#### \* 内藤吐天 (本名 内藤多喜夫)

「昭和24年名古屋薬科大学学長となり、のち名古屋市立大学初代薬学部長となる。定年退職後、名城大学教授となり薬学部長に就任。」

#### まちの風景

祇園寺本堂  
三葉葵紋

